



令和 2 年 12 月
第 24 号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。
その桜本は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何
年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜本
の魅力に少しずつ気づくようになる。
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集ま
り、だんだん細い道となる。
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport

発行者 久保成明

〒818-0004

筑紫野市大字吉木2459-1

人に対する心づかい、思いやりのある行動を振り返る

思いやりを簡単な言葉で表現すると・・・

「周囲の人に不快さを与えず、安心と喜びをあたえること。」です。

このことからわかるように、安心と喜びを与えるためには、まず、自己の行動や発言、表情や語調によつて、周囲の方々に不快さを与えないことが大切です。

とはいえ、深山の桜22号でもお伝えしたように、物を移動させるときに「ガチャガチャ」と音をたてたり、階下の住人のことも考えず「どしどし」と歩いたりするなど、不要な物音を立てていることに気が付かず、知らず知らずのうちに不快さを与えてしまっているケースもあります。

私が学ばせていただいた素心学塾塾長 池田繁美先生は、自分の行動について、「社員の皆さんに対する日常の心づかい」と題してこのようにおっしゃっていました。（著書引用「素直に生きる」より）

（不快さを与えないための心づかい）

① 怒らない。

② 注意や忠告をするときは、冷静にわかりやすく。

③ 相手の欠点を指摘するなど、心に傷をつけるような言動はつしむ。

④ 命令口調や乱暴な言葉づかいをしない。

⑤ 臨時の仕事を依頼するときは、相手の事情を考慮してお願いする。

⑥ 心配ごとやつらい表情を、社員の前で表さない。

⑦ 公私のけじめをつける。

⑧ のみ込みの悪い人をつき放すことなく、適度な課題を与え、徐々に力をつけられるよう指導する。

⑨ もし、急情な人がいれば、課題を与え、ルールをつくり、正しく導く。

⑩ 傲慢な人がいれば、謙虚さの大切さを教えさとし、さらに高い目標を与える。

⑪ 礼儀にうとい人には、品性の向上をうながし、その美しさを説く。

どれをとつても反省ばかりで、ため息も出ないほど未熟さを痛感します。特に私は「寛容さ」が欠けており①、②、③は耳を覆いたくなります。人は自分の至らない点を理解しています。しかし、簡単には意識や行動を変えることができません。我々、グラブ職員は、過去にとらわれず、目の前でつらい思いをしている方々に対して、いかに心づかいが發揮できるかを想って行動することを開設当初からお伝えしてきたかと思えます。行動しない思いやりは真の思いやりではありません。人が喜ぶ顔、動作に加え人の成長を共に学び、共に成長していけるように想ってくださいたなら、わたしはとても幸せです。



令和 3 年 1 月
第 25 号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。
その桜本は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何
年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜本
の魅力に少しずつ気づくようになる。
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集ま
り、だんだん細い道となる。
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport

発行者 久保成明

〒818-0004

筑紫野市大字吉木2459-1

逢うべき人と巡り合える幸せについて

幼い時から、良くも悪くも思いまっただけに実行に移し、突っ走るクセがありました。多分父も母もそんな私に将来への不安を感じていたのではないかと最近よく思います。

話しは変わりますが、わたしは「も」とこうすれば物事が好転するのではないか。」とか、「喜んでくれないか。」など、いっぱい思い浮かんでしまい、周囲と優先順位やスピードのズレを感じることが多々あります。そのたびに周囲を振り回して、困らせることが今でもあつて反省し通します。

今まで私は、自分がしたいと思ったことは曲げずに、探求心をもつてやり抜いてきましたが、そのどれをとつても、その時々において素晴らしい仲間と、応援してくれる家族がそばにいたことに最近気づくようになってきました。

智慧や発想は、自分に神様が与えてくれた力だと感謝しています。しかしタイミングを回りながら自分の想いや考えを周囲に伝えていかなければ、人を苦しめるだけの傲慢で利己的な人間に他なりません。ふつと以前愛読していた、致知出版社の月間「致知」にこんな言葉が掲載されていたことを思い出しました。

「人間は、一生のうち逢うべき人には必ず逢える。しかも一瞬早すぎず、一瞬遅すぎない時に」

「縁は求めざるには生ぜず。内に求める心なくんば、たとえその人の面前にありとも、ついに縁は生ずるに至らずと知るべし。」

皆様ご存じでしょうが、哲学者で教育者の森信三先生が残された言葉です。

先にも述べたように、鉄砲玉のような私ですが、周囲に良い仲間がいて、支えてくれる家族がいるお陰という「縁」で自分がしたいことが叶っていることを自覚したいと思っています。

これから多くの人と出会い、いつも心の内に謙虚な気持ち忘れず、使命感をもってそのバトンを次につなげていけるように頑張ります。

逢うべき人に絶妙なタイミングで巡り合っている私はとても幸せです。

グラブハート所長 久保成明

深山の桜

令和 3 年 2 月
第 26 号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。
その桜本は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何
年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜本
の魅力に少しずつ気づくようになる。
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集ま
り、だんだん細い道となる。
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport

発行者 久保成明

〒818-0004

筑紫野市大字吉木2459-1

本当のありがとうを噛みしめる

私は、本当のありがとうを知っています。

高校を卒業後介護の専門学校で現場実習をさせてもらった時に、担当の患者さんを持つことになりました。その時に指導員の方から言われたことを今でも覚えています。

「ここに住んでるいいさん、ばあさんは帰る場所がないよ。ここで暮らし、ここで最期を迎える。あんなができることはなんね。あんなの担当する江上さんのばあちゃんを喜ばしてみ。カルテでもなんでも見ていいよ。4週間のうち1回でいいけん笑わしてみ。なんでんおしえちやあけん。」江上さんは糖尿病で口喝（異常にのどの渇きを感じる）で、ジスキネジア（体の一部が随意性を持たずに動き続ける症状）という重い症状の方で食事は流動食でした。常に眉間にしわを寄せ、お茶を見ると奪って飲むため一日の摂取量が決められている方でした。私のことなど顔にとまるハエ程度にしか思っていないなかつたと思います。その日から江上さんのすべて（食事介助・水分補給・体位交換・おむつ交換・離臥介助・内服・口腔ケア・散歩）を職員の教えを請いながら徹底的に行いました。心のどこかで自分ならできるといふ傲慢さがあつたのかもしれない。実習も佳境に差し掛かった時、夕食時熱があつた江上さんは食堂には行けず、ベット上で食事を介助していました。私も慣れてきたせいか、早く終わらせてレポートを書こうと焦っていたのだと思います。その時江上さんのジスキネジアが「ピタッ」と止まりました。苦しそうに涙を浮かべ、顔を真っ赤にしていました。「ハッ」としてすぐに職員さん呼びました。あまりの展開に動くこともできず、数名の職員さんが江上さんを運ば吊りにして、背中を何度も叩いているのを見て、取り乱し、パニックになってしまいました。一命をとりとめたと聞いて安心し、その日は帰宅しました。

翌日気持ちを切り替えて2時間ほど早く実習先にお邪魔すると、すでに江上さんのベットはなく、帰らぬ人となっていました。80歳を超えた、唯一の肉親であつた妹さんを職員さんに紹介され、18年間生きてきて最高の謝罪をしました。涙があふれ、自分が何を言つたのかなど覚えていません。静かに妹さんが私に言ってくださつたのは、「あなたの献身的な姉への介護は、職員さんから伺いました。あなたはきつと素晴らしい介護士になれるからがんばってね。ありがとう。」ありがとうという言葉がこんなに重く、心の奥に響いたことはありませんでした。

罪悪感にさいなまれ、介護職を諦めようと何度も思いました。しかしそのたびに江上さんの顔が浮かび、呼び戻してくれました。今年で介護福祉士を取得して25年になります。随分たくさんの方からありがとうという言葉が頂戴してきました。これから先はそのありがとうを噛みしめ、更にお役に立てる人生を歩めたら、私はとても幸せです。

深山の桜

令和 3 年 3 月
第 27 号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。
その桜本は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何
年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜本
の魅力に少しずつ気づくようになる。
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集ま
り、だんだん細い道となる。
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport

発行者 久保成明

〒818-0004

筑紫野市大字吉木2459-1

信頼される上司になろう

ちょうど20年ほど前、職場の上司からいただいた啓発雑誌(題名は覚えていません。)の切り抜きを
今でも大切にデスクの横に貼って、毎日振り返りのつもりで唱和しています。当たり前のことしか書いて
ありませんし、特別なことでもないのですが、いろいろな職場で働いてきたにも関わらず、捨てられず、
私のそばを離れないということは、よほど縁があるものだと思信しています。(涙)

信頼できる上司(人物)像とは・・・

- ・嘘をつかない・人の良いところを見る・先頭に立って行動する・自分というものを持っている
- ・フォローしてくれる・言い張らない・平等に評価してくれる・一生懸命・思いやりがある
- ・正直で素直・時間を大切にできる・感情(喜怒哀楽)をコントロールできる・責任感がある
- ・自己中心的でない・チームワークを大切にできる・計画的、建設的な考えや行動ができる
- ・否定から入らない・情熱がある・実績が出せる・ちまちまお金のことを言わない
- ・活力を与えてくれる・相談がしやすい・相手の立場に立てる・決断力がある・報連相ができる
- ・注意してくれる・リーダーシップが発揮できる

これらすべては、「他人」が感じることであり、周囲の人に気付かせてもらえることです。求めて手に入
るものではなく、一つひとつ小さなことの積み重ねが「信頼」という形で返ってくるものだと考えます。
とりわけ、「嘘をつかない」「正直で素直」「否定から入らない」については職員のお手本となれるように
頑張りたいと思っています。

先日、一本の電話がありました。シングルマザーで4人の子育てをしつつ、放課後等デイサービスを経
営されている「さん」です。私はその会社の協力者(相談役)として相談を受ける立場だったのですが、
久保さんの事業所に2名の児童様をご紹介したい。私の大切な児童なので信頼のおける事業所に通っ
てほしい。また保育士さんの仕事を探している児童様のママさんから仕事を紹介してほしいと言われ
ていて、可能であれば検討していただけないか?という依頼でした。ご存じの通り、同業者が他者にお客
様を紹介するなどなかなかありませんし、ましてや現在保育士確保が困難な時代に人材を同業他
社が紹介してくれることなど皆無に等しいと思います。私が常々考える地域福祉連携の考え方をよ
く理解してくださり、信頼して私に託そうとしてくれたその気持ちがいけなく思えた瞬間でした。
いつも「こり」として、一生懸命な「さん」をこれからも応援していくことはもとより、育児・家事・
経営などご多忙極める「さん」のお手伝いができることに感謝します。

共に学び・共に成長できる仲間がいる私はとても幸せです。

グラブハート所長 久保成明



深山の桜

令和 3 年 4 月
第 28 号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。
その桜本は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何
年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜本
の魅力に少しずつ気づくようになる。
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集ま
り、だんだん細い道となる。
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport

発行者 久保成明

〒818-0004

筑紫野市大字吉木2459-1

「菜根譚」という教えについて

仕事が順調な方は「運がいい」とか「波に乗る」といった偶発的事実ではなく、根柢に裏付けされた思考や行動ができ、非凡なことを平凡に努めることが出来る方だと考えます。私もそうなりたいと努力をしています。なかなか到達できません。（実際は、著にも棒にもかかりません。笑）
小さな失敗や周囲から言われたことで心に波風が立って、表情や語調に出てしまいます。また、自分は正しいという浅はかで反省色のない気持ちで心を支配します。そういう時は必ず、問題を自分以外のせいにして、人を責め立てることがあり、鼻息が荒く、鬼のような形相になっていると思います。
辛いなことに私たち夫婦は、共働きで家事分担しているせいか、あまり家庭の事では衝突しないのですが、最近、仕事上の事で熱が入り過ぎてしまう傾向があります。しかし以前の様にお互いを攻撃するのではなく、言い合って嫌な思いをしても、問題の本質は何だったのかを思い出して、それについては私が至らなかつたと謝すことが出来るようになってきました。

最近一冊の本を購入し、少しずつ噛みしめながら読んでいます。

さいこんたん

本のタイトルは「菜根譚」です。堅い菜根もよく噛めば滋養となつて、心身は健やかになる。一つ一つの言葉をよく噛みしめて味わえば、人生をよく生きる標（しるべ）となるという意です。また「中国5千年の人生訓を集大成とした奇書」と言われ、儒教・仏教・道教の三大思想を含んだ傑作であり、文永5年徳川家斉の時代から180余年読み継がれてきた処世修養の書と書かれていました。心のクセが強い私には先人の教え、戒めが詰まつたこの菜根譚こそ、ぴつたりだと日々読み返しています。今日はその一説をご紹介します。

憂勤是美德 太苦則無以適正怡情。澹泊是高風 太枯則無以濟人利物。

（仕事に邁進することは美德であるが苦役と感ぜられるほどの働き過ぎでは心身が疲弊する。また、さつぱりとして気位が高いのは良いが、淡泊であり過ぎては何の役にも立たない人間となる。）

孔子のいう、過ぎたるは猶及ばざるが如しであり、なんであれ極端に走ることとはやめ、世の中をよくしようという気持ちを忘れずに、問題が起きた時に過度に頑張り過ぎたり、淡々とし過ぎたりせず、ほどほどに生きるという中庸が道德の道でもあるという教えでした。

正しい信念に突き進むことは大切ですがどこかで振り返って、立ち止まって、時に後戻りするくらいのはほどほどに減がないと長続きしないなあど気付かせてもらえた私はとても幸せです。

深山の桜

令和 3 年 5 月
第 29 号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。
その桜本は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何
年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜本
の魅力に少しずつ気づくようになる。
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集ま
り、だんだん細い道となる。
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport
発行者 久保成明
〒818-0004
筑紫野市大字吉木2459-1

「目力から全体の雰囲気をつくる。」

目力とは、目の表情や視線が相手に与える印象であり、目力が強い人は意思や内面性が強いように見え、仕事を任せる場合「やつてくれそうだ」と期待感が高まります。逆に目力のない人はやる気のない人、積極性に欠ける人と誤解され、時に死んだ目をしているとか、腐った目をしているなどのマイナス思考な表現をされる場合もあります。古くから「目は口ほどにものをいう。」と言われるくらいに、とても大切なことだと考えます。

現在コロナウイルスの感染を懸念し、人流の抑制・三密回避・基本的衛生行動（手洗い・消毒・うがい）に加えて、終日マスクの着用が定着しています。

職場でも、お店でも、マスクを着用していない人はほとんどいません。それ故に、全体の表情が見えず、マスクを着用していないとき以上に、柔和な表情を意識することが求められます。

私たちは、サービスを売って生業としていますので、ご利用者様の前では、無理をしても笑顔で明るい印象を感じ取っていただけるという前提条件のもと、業務遂行する責任があります。「私は笑顔が苦手だから。」とか「おかしくもないのに笑えません。」というのは、数ある業務の中の大切な一つの項目を放棄したことに他なりません。私はそう思います。

しかし、笑顔で明るい雰囲気を目力だけで演出することは、簡単なことではありません。

私が学ばせていただいた素心学塾塾長池田茂美先生は、著書「素直な心に花が咲く」の中でこのような記載を残されています。（以下引用第3章③「心がまえを変える。」より）

「心がまえ」は「心の習慣」と言ってもよいでしょう。「不満」は不幸の道、「感謝」は幸福の道へと私たちを導きます。自分が幸福になると、周りの人たちも幸福になることができます。さらにそのずと周りの人たちも…。自分の思い通りに相手や世の中を変えることはできません。しかし、自分が変わることによって相手も変わります。わたしの「心がまえ」を変えることで、妻も子供も社員たちも変わりました。「心がまえ」を変えることでしか、自分の人生は変えられないのです。

わたしは、この「心がまえ」を読んだときに、自分がサービス業で生活していることを改めて実感し、「心がまえ」を正すことが自分のみならず周囲に大きな影響を与えることを学びました。

おひとりおひとりが慌ただしい日常のなかでありながらも、こういう時期だからこそ「心がまえ」を正すきっかけにいただければ、私はとても幸せです。